
student

鞠子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

student

【コード】

N7964B

【作者名】

鞠子

【あらすじ】

ごく普通の筈の高校見学から主人公の生活が一変！

第一話

来年16歳になる予定の私は朝の日差しに包まれぐっすりと眠っていた。

「鈴音起きなさい！」

お母さんのいつもと変わらない声で目が覚めた。

また学校か・・・と思ったけれどよく考えなくても今は春休み。

じゃあ今日は何の日だよ・・・。

眠い目をこすりながら私の足はリビングへ向かっていた。

朝の日差しを浴びているリビングは朝ごはんのいい匂いでいっぱいだった。

「お母さん、今日なんかある日だったっけ？」

今私の一番の疑問をお母さんに聞いた。

「今日は高校の見学でしょ？」

そういえばそうだった。

私は将来何になるのか。

殆ど考えてなかった私は将来性のある高校にとりあえず入った。

今日はその高校の見学日。興味なかったから（自分の事なのに）忘れてた。

「ほら、早く食べないと！」

「鈴音ちゃんの行く高校の見学だもんね！」

お母さんは私が見学に行くのが楽しみらしい。
（自分の事じゃないのに・・・）

ご飯をガツガツと口につっこんで私は「いつてきます!」
と言って家の扉を勢いよく開け、高校への道を走っていった。

今日は結構遅くまで寝てたから遅刻かもしれない。

見学の日から遅刻はヤバイ。

私は早足だった足をもっと速く動かした。

高校の屋根の部分が見えるくらいまで近づいてきた。
遅刻していない事を祈りつつ私は校門へと近づいていった。

見学する新・一年が座って並んでいるのが見えた。

(遅刻したかな・・・?)

しかしその様子を見ている限りではまだ人同士が喋っている。

(たぶん・・・大丈夫かな・・・?)

そう考えつつ列の最後尾らしき所を探した。

私がキョロキョロしていると皆より一回り小柄で可愛い感じの子が手を振っていた。

「じゅっちゅっちゅー！」

この子との面識は全くない。しかし私に手を振っている事は確かだ。

「ここに座ればいいかな？」

人見知りがまじった声で私は言った。

その子はニコニコして頷いていた。

私はその子の後ろに座った。

「名前、なんていうの？」

その子は笑顔を絶やさずに聞いてきた。

「えっと・・・水無月・・・鈴音・・・です」

「みなづきすずねちゃんか・・・かーわいーい名前！」

その子はそう言って何度も頷いていた。

「私は綾瀬川 奈津華！ なっちゃんていいよ！」

あやせがわなつか・・・私はその名前を何度も心の中で繰り返した。

「よろしくね！すずちゃん！」

なんだかいつの間にかあだ名がついてますよ。

高校への不安の一つだった「友達」はすぐ解決した。
そんな事を考えていたら担任の先生らしき人達が私達の前に出てきた。

先生が出てきたら一瞬で周りが静まり返った。

「皆さん、始めまして！今日は・・・・・・・・・・・・・・・・」

先生の話が長くてそっから先は覚えてない。

私がボーっとしているのをやめた頃に先生は言った。

「では、後は高校の中を自由に見学してください！」

自由にと言っても行動範囲は限られていた。
でも自由に見れるならそれはそれでいいかも。

「すずちゃん、一緒に見学する？」

なつちゃん（奈津華ちゃん）は私を早速さそってくれた。

なつちゃんは私の手を引っ張っているんな所を回ってくれた。

・・・ん？なつちゃん妙に高校の案内上手い気がする・・・

「え？だってここ、お父さんが作ったところだよ？」

なっちゃんはキョトンとした目で言った。

そういえばこの高校の名前って・・・

「綾瀬川学院・・・」

オイオイオイオイ・・・。

確かに気づかなかった私もおバカだけど・・・

「そんな事いいじゃん、行くー！」

なっちゃんは相変わらずニコニコして私の手を引っ張った。

私は一体どんなお友達ができたのでしょうか・・・

第一話・終わり（続）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7964b/>

student

2010年10月12日05時53分発行